

三つのキーワードで考える 摂食嚥下障害と口腔ケア（１）

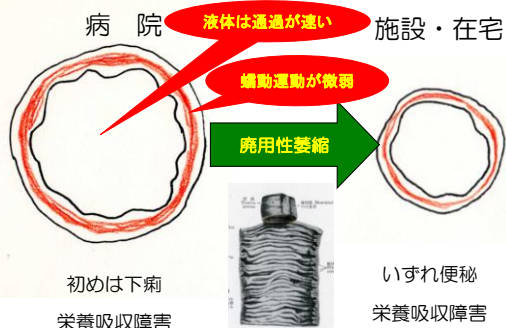


一般社団法人 **TOUCH**

<http://www.touch-sss.net/>

館村 卓

腸管の断面



安全・快適に食べるための 3つのポイント

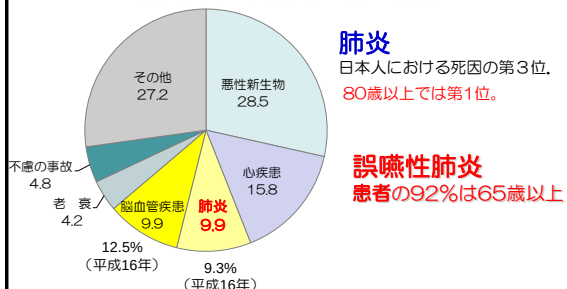
呼吸路の安全性の確保
口腔～咽頭機能の賦活
食物の調整

プラークが原因の発熱の特徴

1. 38～38.5度程度の発熱
2. 胸写には陳旧性の像以外は見られない
3. 解熱処置を行うと1日程度で改善する
4. CRPは陽性となる

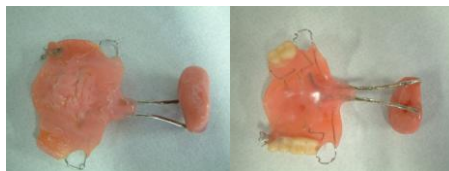
除外：女性で尿道カテーテルを留置している場合

主な死因別死亡数（％）



厚生労働省HP 平成23年の人口動態統計より

Swallow aid?



31

摂食・咀嚼・嚥下機能(先行期)

食品の認知

体性感覚

20/75

32

準備期

食物取込み+食塊形成(咀嚼)

食品の取込み(口唇)

食品の咬断(前歯)

食渣の移送(舌)

食物の粉碎(臼歯)

食物の磨り潰し(臼歯)

唾液との混合(舌・唾液腺・臼歯)

口腔内で食塊形成が良好安全に行われる
↓
咽頭に食渣が漏れない

鼻咽腔一開放

口唇一閉鎖

舌・軟口蓋一閉鎖

鼻呼吸

A

33

口腔期

嚥下の開始(嚥下第1相) 食塊の後方移送

咽頭に食渣を落とさない

舌の挙上

舌の後方移動

軟口蓋の挙上

咽頭側壁の内方運動

鼻咽腔一閉鎖

呼吸停止(呼吸相)

B

34

咽頭期(1) 嚥下第2相前半

反射性嚥下の開始+食塊の咽頭への吸引

気管に食渣を落とさない
口腔側への逆流を防ぐ
速やかに後半へ移行する

舌の後方移動

喉頭の上側方移動

喉頭の前後傾斜

舌一喉頭の近接

鼻咽腔一閉鎖

呼吸停止(呼吸相)

咽頭陰圧形成

喉頭挙上運動
呼吸停止

35

咽頭期(2) 嚥下第2相後半

食塊の食道への抽入

気管に吸入しない
逆流させない
速やかに食道期移行する

喉頭蓋の気道閉鎖

輪状咽頭筋の弛緩

声帯筋の閉鎖

鼻咽腔一閉鎖

呼吸停止(呼吸相)

咽頭陽圧転換

食道陰圧形成

D

36

食道期 嚥下第3相

食塊の胃への移動

逆流させない

輪状咽頭筋の収縮

食道括約筋の蠕動運動

鼻咽腔一閉鎖

呼吸停止(呼吸相)

食道陰圧の順次形成

E

長期非経口摂取であった 遷延性意識障害患者に対する 摂食嚥下療法



大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座
社団法人 TOUCH

館村 卓
吉田歯科医院
吉田 春陽

局所所見（3）

軟口蓋

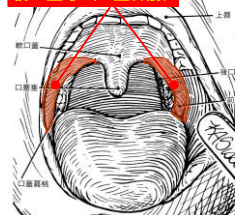
安静時 : 口蓋垂の変位認めず.

対刺激反応 : 軽微

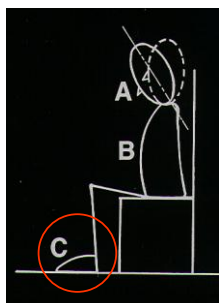
反射性挙上運動(-)

嘔吐反射(-)

前口蓋弓（口蓋舌筋）

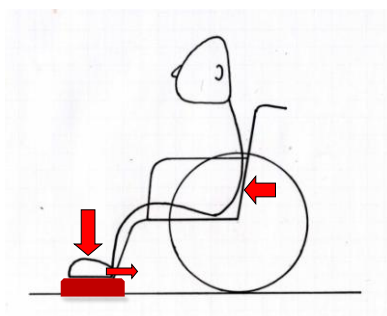


誤嚥防止姿勢

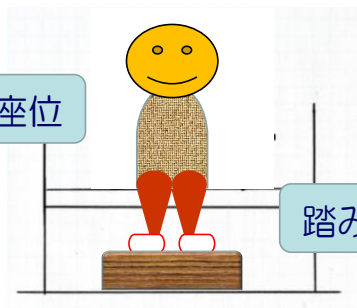


椅子での座位

A: うなずき
B: 姿勢保持
C: 足底接地



端座位



踏み台

115

1. 姿勢の調整（起座位+足底接地+うなずき）



- ・ 胸郭を拡張させる
 - ・ 十分に換気できる
 - ・ 呼吸停止時間を延長できる
- ・ 下顎前方位にする（＝舌を前方位にする＝舌根沈下の改善）
 - ・ 咽頭での呼吸路の確保
 - ・ 舌運動領域が拡張

2b. 口腔ケア（口腔清掃）

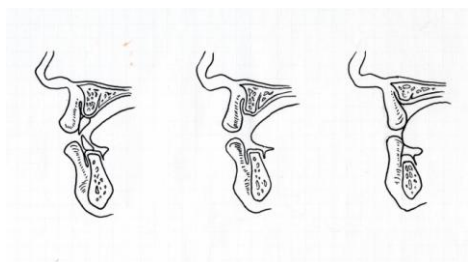


1. 誤嚥性肺炎の予防
2. 舌運動領域の拡大
3. 頬筋・閉口筋のストレッチ
4. 口峽の開大量の改善

食物調理の決め方

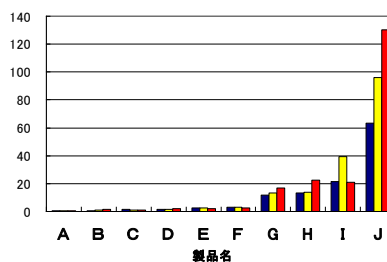
舌と口唇の動きかたによって離乳食に準じる

舌	口唇閉鎖	離乳食
前後	弱い	初期食
上下	強い	中期食
左右	強い	後期食



治具(φ12mm)の落下時間(sec)

明治乳業研究グループとの共同研究



鎌西克己, 藤村 卓, 他: 簡易粘度計を用いた市販各種
トロッ調製食品の粘性の比較. 大阪教育大学紀要,
55(2): 69-78, 2007

咽頭通過時間

Dantas,RO,Kern,MK,Massey,BT., et al:
Effect of swallowed bolus variables on oral and pharyngeal
phases of swallowing. Am.J.Physiol., 58,G675(1990)

口腔ー咽頭通過時間:

粘稠度が上昇すると通過時間は延長する

中沢文子: 嚥下した飯・かゆ・水の超音波による咽頭部の流速比較.
日本家政学会誌, 51,1067(2000)

様々なテクスチャの「粥」の嚥下時の咽頭通過時間を計測

加水量が85%までは流速に大きな変化はない.

85%を超えると平均速度は上昇する.



<http://www.touch-sss.net>

平成26年度TOUCH摂食咀嚼嚥下基礎セミナー

4月 5日 基礎A 総論

7月12日 基礎B 評価

10月 4日 アドバンスト 対応

11月22日 グループワーク

8月31日 第1回口腔装置治療セミナー

PAP,スピーチエイド, PLP